

呼吸器感染症に対する ME 1207 の臨床的検討

北田 修・中村 仁・杉田 實  
兵庫医科大学第五内科\*

新しく開発された経口セフェム系抗生剤 ME 1207 を、急性気管支炎 4 例の呼吸器感染症患者に 1 回 100 mg ないし 200 mg を 1 日 3 回、7~14 日間食後経口投与した。臨床効果は 4 例中 3 例が有効、1 例がやや有効であった。副作用、臨床検査値の異常例としては軽度の好酸球増多が一例認められた。

**Key words** : ME 1207, 経口セフェム系抗生剤, 呼吸器感染症

ME 1207 は明治製菓株式会社薬品総合研究所で合成された新規なエステル型経口セフェム剤で内服後、腸管壁のエステラーゼにより加水分解され、活性な ME 1206 として吸収される。抗菌活性体 ME 1206 はグラム陽性、陰性菌に広範囲な抗菌スペクトルを有し、また各種  $\beta$ -ラクタマーゼに対し安定で、本酵素産生株にも強い抗菌力を示す<sup>1)</sup>。

今回、ME 1207 を呼吸器感染症に使用し、その臨床的有効性と安全性について検討した。

対象は、平成 1 年 11 月から平成 2 年 4 月までの間に、兵庫医科大学内科を受診し、本剤投与の同意の得

られた急性気管支炎 4 例である。その内訳は、外来治療 3 例及び入院治療 1 例で、年齢は 31 歳から 70 歳までの男・女各 2 例である。薬剤投与方法としては ME 1207 を 1 回 100 mg~200 mg、1 日 3 回毎食後経口投与した。投与期間は 7~14 日、総投与量は 2.1g~4.2 g であった。

治療効果の判定は、ME 1207 投与後、自・他覚症状(発熱、咳嗽、喀痰の性状及び量など)及び血液所見(白血球数、CRP、赤沈など)の改善度を総合的に判断し、症状・所見の速やかな改善をみたものを著効、明らかな症状・所見の改善をみたものを有効、多少の改

Table 1. Summary of cases treated with ME1207

Case no.	Age (y)・Sex・B.W. (kg)	Diagnosis underlying disease	Treatment			Isolated organism	B.T. (°C)	Cough	Sputum	WBC (/mm <sup>3</sup> )	CRP (mg/dl)	ESR (mm/h)	Bacteriological effect	Clinical efficacy	Side effects	Remarks
			daily dose (mg・times)	duration (days)	total dose (g)											
1	50 F 42	acute bronchitis	100×3	7	2.1	normal flora	<37	+	## (PM)	8,900	0	12	unknown	fair	(-)	
		bronchial asthma				↓ ND	<37	+	+	7,700	ND	20				
2	31 F 52	acute bronchitis	200×3	7	4.0	normal flora	38.0	+	## (PM)	11,400	2.8	14	unknown	good	(-)	
		bronchial asthma				↓ normal flora	<37	-	+	6,300	0	14				
3	70 M unknown	acute bronchitis	100×3	14	4.2	normal flora	37.2	##	+(P)	7,300	0.8	55	unknown	good	(-)	eosinophilia 9%→17%→ 8% (657→ 1003→376)
		empyema				↓ (-)	<37	-	(-)	5,900	0.4	49				
4	56 M 55	acute bronchitis	100×3	7	2.1	normal flora	37.6	##	##(P)	4,300	1.3	18	unknown	good	(-)	
		bronchial asthma				↓ (-)	<37	-	(-)	6,400	0	10				

ND: Not done

\*〒 663 西宮市武庫川町 1-1

Table 2. Laboratory findings before and after administration of ME1207

No.		RBC ( $\times 10^4/\text{mm}^3$ )	Hb (g/dl)	Ht (%)	WBC ( $/\text{mm}^3$ )	Eos (%)	Plt ( $\times 10^4/\text{mm}^3$ )	S-GOT (I.U.)	S-GPT (I.U.)	Al-P (BLU)	BUN (mg/dl)	S-Cr (mg/dl)	CRP (mg/dl)	ESR (mm/h)
1	Before	420	12.4	38.0	8,900	17	29.5	20	10	1.84	21.0	0.83	0	12
	After	415	12.4	38.2	7,700	1	26.9	19	11	1.71	16.9	0.82	ND	20
2	Before	414	12.8	37.2	11,400	1	22.0	16	12	2.32	10.1	0.69	2.8	14
	After	393	12.1	35.8	6,300	6	27.6	15	14	1.88	13.8	0.72	0	14
3	Before	460	14.4	42.8	7,300	9	22.3	17	9	1.87	21.4	1.18	0.8	55
	After	452	14.2	41.7	5,900	17	23.2	20	11	2.12	22.2	1.10	0.4	49
4	Before	451	13.8	41.8	4,300	1	18	19	10	1.67	8.9	0.94	1.3	18
	After	407	12.2	37.7	6,400	3	22.3	9	9	1.35	8.5	0.71	0	10

ND: Not done

善をみたものをやや有効、症状・所見の改善がみられなかったもの及び悪化がみられたものを無効の4段階に判定した。

また、ME 1207 投与前後に自覚症状の観察並びに末梢血液検査、肝機能検査、腎機能検査、尿検査等を実施し安全性検討を行った。

各症例の概要を Tables 1, 2 に示した。症例 1 は気管支喘息を基礎疾患とする急性気管支炎例で、タリビッド® 7 日間投与によるも無効で本剤を 100 mg 1 日 3 回 7 日間投与した例である。喀痰培養では常在菌のみ検出され、起炎菌は不明であったが、臨床的には喀痰の量及び性状の改善、咽頭痛の消失がみられたものの、咳嗽、赤沈の改善がみられず、やや有効と判定した。症例 2 は、気管支喘息を基礎疾患とする急性気管支炎例で、咳嗽、38°C の発熱で来院した。喀痰培養では常在菌のみ検出され、起炎菌は不明であったが、本剤 200 mg 1 日 3 回 7 日間投与により臨床的には解熱、咳嗽の消失、喀痰量の減少並びに白血球数、CRP の改善がみられ、有効と判定した。症例 3 は昭和 63 年 6 月より follow up 中の膿胸を基礎疾患とする症例で、発熱、咳嗽、膿性痰等の自覚症状を訴え来院した急性気管支炎例である。喀痰培養では常在菌のみ検出され、起炎菌は不明であったが、本剤 1 回 100 mg 1 日 3 回 14 日間投与により解熱、咳嗽の消失、喀痰性状の改善がみられ、有効と判定した。症例 4 は気管支喘息を基礎疾患とする症例で、発熱、咳嗽、膿性痰および呼吸困難で来院した急性気管支炎例である。喀痰培養では常在菌のみ検出され、起炎菌は不明であったが、本剤 100 mg 1 日 3 回 7 日間投与により解熱、咳嗽と喀痰、呼吸困難の消失並びに CRP の改善がみられ、有効と判定した。

ME 1207 投与中に本剤に起因すると思われる副作用

用は認められなかった。臨床検査値の異常変動は、症例 3 において一過性軽度の好酸球増多がみられた。投与前より 9% (実数 657) と高値を示すものの、投与終了時に 17% (実数 1,003) と増多をきたし、本剤との因果関係を否定しえず、「関係あるかもしれない」と判定した。その他本剤に起因すると考えられる異常変動は全くみられなかった。

ME 1207 はエステル型経口セフェム剤で、内服後、腸管壁のエステラーゼにより加水分解され抗菌活性体 ME 1206 として吸収される。ME 1206 はグラム陽性、陰性菌に広範囲な抗菌スペクトルを有し、その作用は殺菌的である。また各種  $\beta$ -ラクタマーゼに対し安定で、本酵素産生株にも強い抗菌力を示す。

今回、ME 1207 を急性気管支炎 4 例に投与した。副作用は全例に認められなかったが、臨床検査値異常として 1 例に軽度な好酸球増多が認められた。また、全症例において、喀痰より起炎菌の特定ができず、細菌学的効果は不明であったが、臨床効果は 4 例中 3 例が有効、1 例がやや有効であった。やや有効例の症例 1 は直前に他剤 (タリビッド®) が投与されるも無効であった症例であった。この場合、100 mg 1 日 3 回投与により治療を試みたが、自覚症状の消失が得られなかったことより、本症例に対しては 200 mg 1 日 3 回投与が必要であったと考えられる。他の 3 例の急性気管支炎に対しては、100 mg ないし 200 mg 1 日 3 回投与で全例有効であった。以上の成績より、本剤は軽症ないし中等症の呼吸器感染症に対し、有用な薬剤であるとの感觸を得た。

#### 文 献

- 1) 横田健、島田馨：第 39 回日本化学療法学会総会，新薬シンポジウム。ME 1207，東京，1991

---

## CLINICAL STUDY ON ME1207 IN RESPIRATORY TRACT INFECTIONS

Osamu Kitada, Hitoshi Nakamura, Minoru Sugita  
Fifth Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine,  
1-1 Mukogawa-cho, Nishinomiya 663, Japan

ME1207 was orally administered at a dose of 100 or 200mg t.i.d. to 4 patients with acute bronchitis. The clinical efficacy was good in 3 and fair in 1. As to adverse effects or abnormal laboratory findings, eosinophilia was observed in one case.